

2009.6

第21号

【発行所】
嬉野医療センター佐賀県嬉野市嬉野町
大学下宿内2436番地

うれしの



病院の沿革

大正7年(1918) 佐世保鎮守府軍医長「西勇輝」が福原蒙法の必要性を教く
昭和5年(1930) 嬉野町職工会会員「森水一」が海軍病院の建設を提案
昭和6年(1931) 嬉野町長・朝日六太郎、前海軍病院建設の申請書を提出
昭和7年(1932) 代議士「佐保翠庭」等の働きで下算化
昭和12年(1937) 嬉野海軍病院開設
1,530床(当時、病床数で日本最大)
昭和20年(1945) 独立行政法人として発足(厚生省移管)
昭和13年(1938) 病院新築
平成12年(2000) 内閣総理大臣に任ぜた独立行政法人病院とされ
平成15年(2003) 病院権改定
平成16年(2004) 独立行政法人嬉野医療センターとして発足(独立行政法人化)

山口 亮一 (Yamaguchi Ryoichi)

高岡市立第一中学校、佐賀市立松原中学校、中野公民館(佐賀市立)の先生として勤務。林田次郎の弟子となる。1918年に五歳の時に、南洋で
あつた山口亮一の養子となる。
海賊小学校より佐賀中学校まで、早稲田中学校に入り、卒業後は
海軍を経て、林田次郎が主宰する社会主義研究所に入る。

明治39年、東京美術学校専修科に入学。明治や昭和初期
の教育を受ける。昭和3年、同窓会第1回展に出品し、同年、文部省
文部省に選出される。

明治40年代は西宮の久米利一や林田次郎、前川其作ら洋画家、小
林武吉らで、林田次郎は林田次郎、前川其作、義経の久木末と
明治義の妹をもつた在阪作家たちの頃を経てている。

明治41年、東京美術学校専修科を卒業。その結果として、明治や昭和初期
の教育を受けた林田次郎、久木末、林田次郎の門下生たちの右
をうけついだので、主に明治の洋画をもたらすがわざの、の
領域で活動した。

大正2年に、久木末一たる。昭和3年卒業と並に「若者教育研究会」
を創立。その最初年に出版。林田、前川などもあって進歩的抗戦
に力を注いだ。

■昭和42年(1967) 横

絵画をご覧になりましたか?

皆さんは病院内で絵画を見受けられると思いますが、全部で何枚あると思いますか。なんと126枚あります。そして今回、隠れていた名画が院内から発見され127枚目となりました。

この絵画は佐賀美術協会の創始者でもある洋画家の山口亮一(やまぐちりょういち)画伯が描かれ海軍病院時代に献上されたものです。発見当時の表面のひび割れや額の細工が一部欠けていたりと修復が必要な状況でしたが、林田次郎様(嬉野市在住)から頂いていた寄付金を活用し、専門家に修復をお願いして4ヶ月かけて現在の姿に戻りました。

1階中央廊下ATM近くにありますので、仕事の合間にでも絵を眺めて“ちょっと息”はいかがですか。文責：管理課長

患者さんの権利

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 | 5 常に人としての尊厳を守られる権利 |
| 2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利 |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 | 7 繼続して一貫した医療を受ける権利 |
| 4 プライバシーが守られる権利 | 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

CONTENTS

- ② 定年退職を迎えて 一 病院広報誌とのかかわりー
- ④ 新任の挨拶
- ⑤ 院長の講演会に参加して
- ⑥ 新型インフルエンザ想定訓練を行って

- ⑦ 認定看護師教育課程「皮膚・排泄ケアコース」を受講して

～お祝膳を開始しました～

- ⑧ 外来診療担当医表／編集後記



定年退職を迎えて

—病院広報誌とのかかわり—

広報誌編集委員長（元泌尿器科部長） 計屋 紘信

私は昭和55年4月から当院に勤務してまいりましたが、29年間の勤務を終わってこのたび平成21年3月で定年退職いたしました。

29年と言う長い期間でしたが、過ぎ去ってみると短く感じます。この間多くのことがありました。仕事、勉強、遊びそれぞれに多くのことがありましたが、すべて懐かしく思い出されます。これから嬉野医療センターのあゆみを見守っていきたいと思っています。

本誌病院広報誌とのかかわりは、平成7年に編集委員長に元廣田典祥院長から命ぜられたところから始まりました。以来足かけ15年間勤めました。

2004年1月号(平成16年)に「病院広報誌 嬉野のあゆみ」と題してそれまでの歴史を述べましたが、もう一度簡単にあさらいをしたいと思います。

■写真1

当院は第二次大戦前に海軍病院として創立され、戦後厚生省に移管され、国立病院として佐賀県西部の医療の中心的役割を担ってきました。「病院広報誌 嬉野」の創刊号がいつ発刊されたのか分かりませんが、このB4たて書きの「嬉野」が平成10年1月の63号まで長く作られてきました。おそらく年に2回発行されていたものと思います。写真1は若いころの元廣田典祥院長の巻頭言と、「有明海の朝」と題した放射線科柳 美幸副技師長の撮影を1面にした平成10年1月の63号です。

■写真2

次いで写真2のA4たて書きになります。広報誌編集と作成の基礎がしっかりしてきたので内容の充実と共にこの形となりました。これは平成12年2月の国立療養所武雄病院との合併までの2年間で8巻作られ、平成12年1月号

までこの形の「広報誌 嬉野」は最終号となりました。写真2は平成11年7月の第69号で、前田謙而整形外科部長当時の副院長の巻頭言と橋本洋子手術室婦長さん撮影の菖蒲の写真を1面にしたものです。

■写真3

当院は前述のように平成12年2月に同じ国立嬉野病院と言う名称ながら武雄病院と対等合併し、新生国立嬉野病院となりました。それに伴って広報誌もA4よこ書きとなり、題字は元庶務主任濱野 強さんに書いていただき一新されました。そして病院が増築、改築され美しくなっていくころの平成13年7月号から紙面がオールカラーとなり「広報誌 嬉野」も美しくなっていきました。写真3は平成12年2月の創刊号で新病院発足のテープカットの際の撮影を1面にしています。

■写真4

そして次の病院の大きな出来事は平成16年4月の独立行政法人、国立病院機構 嬉野医療センターとしての再スタートでした。このときから広報誌もさらに新しくなり、平成16年4月に創刊号として再々のスタートを切り、「うれしの」とかな書きの題字となりました。以来現在のかたちとなっていますが、平成21年新春号まで通産108号となり私が編集にかかわってからおよそ半数が作られたことになります。写真4は最新の平成21年2月の「うれしの」第20号です。1面の写真は「寒さに負けないさざんか」と題した企画課機部武嗣さんの撮影です。

このように当院は増改築を重ね内装外装共に美しくなりつつ、また診療機能も高度になりつつ、旧国立嬉野病院から武雄病院と合併した新国立嬉野病院へ、そして独立行政法人国立病院機構嬉野医療センターへと進化してきました。これに伴って「広報誌 うれしの」も前述のよう



に4回も形を変え美しくなってきました。「広報誌 うれしの」は病院のそのときそのときの表情を映し出す鏡のようなもので、病院のひとつの「顔」としてあるものと考えてきました。

今後とも「広報誌 うれしの」は形を変えながら続していくことでしょう。これから嬉野医療センターのあゆみと「広報誌 うれしの」のあゆみとをさらに見守ってゆきたいと思っています。

以上退職の挨拶と「広報誌 うれしの」とのかわりを述べました。長年嬉野医療センターに泌尿器科医長として勤務し、地域の泌尿器科医療に貢献してきたと思っていましたが、「広報誌 うれしの」の編集作業に際しては本業の合間の作業のため、十分な推敲もできないまま発行して後で間違いを指摘され、お叱りを受けたこともあります。様々なことはありましたが、「広報誌 うれしの」と長くかかわることができましたことを心から感謝するものです。

ありがとうございました。



写真3



写真4

新任の挨拶



臨床研究部長 澤井 豊光

私は、平成4年に長崎大学医学部を卒業後、長崎大学第二内科に入局し研修医として2年間勤務した後、呼吸器科のなかでも感染症領域を専門として日々臨床の生活を送ってまいりました。呼吸器感染症グループは長崎大学第二内科のなかで臨床治験や臨床研究を最も多く行っているグループである関係上私も臨床治験に携わる機会が多かったこと、また、平成10年に国立循環器病センターの感染対策室を立ち上げ、その後3年間院内感染対策に従事した経験があったことから、4月1日付けで当センター臨床研究部長に新たに採用して顶いたことになりました。

臨床研究部の役割は臨床研究の推進、臨床治験の推進、院内感染対策の3つに大きく分けられます。国立病院機構では診療事業、臨床研究事業、教育研修事業を大きな柱としており、なかでも臨床研究事業は145の病院群、約58000床という日本最大のネットワークを活用して、大規模な臨床試験を進め、EBMの基礎となるデータを集積し、その情報を発信することにより我が国の医療の質の向上に貢献することが期待されています。臨床治験に関しても機構本部が一括審査を行う中央治験審査委員会を軸に、この国立病院機構のネットワークを活かし

た多病院間の共同治験を迅速かつ質の高いレベルで推進していくことが望まれています。臨床治験の推進のためにはCRC(治験コーディネーター)が不可欠ですが、当センター治験管理室には2名のCRCが配置されており、現在精力的に活動しているところです。院内感染対策については、佐賀県で初めての感染管理認定看護師が本年度から専任となりますので、当センター内の院内感染対策はもちろん、将来的には佐賀県全体の地域の感染対策を目指していくべきだと思います。

当センターの臨床研究部は平成17年に院内標榜の形で立ち上げられましたが、機構本部と足取りを合わせ臨床研究および臨床治験を進めていった結果、国立病院機構内での研究実績は平成17年度で64位、平成18年度には33位と好成績を上げ、平成20年度より臨床研究部に格上げとなり職員定数枠2名を得ることとなりました。多忙な診療業務の合間に臨床試験や臨床治験を行うことは負担ではありますが、各科の研究費獲得だけでなく技能・評価の向上ひいては人材の育成・確保につながっていくものと思われますので、是非、積極的に関わっていただきたいと思います。



看護部長 杉原三千代

4月1日付けで、国立病院機構熊本医療センターより昇任で看護部長として着任しました杉原でございます。よろしくお願い致します。嬉野は、当センター附属の看護学校を卒業後外科病棟に7年間、循環器病棟に2年間お世話になりました。21年ぶ

りに2度目の勤務になります。あの頃とはちがい病院も一新され、発展した姿を目のあたりにし誇りに感じています。病院の基本理念である“信頼と心のゆとり”的のもと、明るく元気な看護部にしていこうと考えています。信頼を得るために、良質で安全な医療なくして信頼は得ら

れません。そのためには、サービスの質の保証が必要です。品質管理の基本である5S、つまり「整理」とは不必要的ものを除去すること。「整頓」とは、必要なものを必要な時に使える状態にしておくこと。「清掃」とは、必要なものや場所をきれいに掃除し、ゴミやヨゴレのないようにすること。「清潔」とは、整理整頓清潔を維持していくこと。「躰」とは、決められたことをいつも守る習慣をつけること。を実践していきたいと思っています。

また、今年度の病院の目標のひとつに人材育成があります。病院の中で職員数も多く、他部門との調整を担える看護部は、率先して持てる力を発揮しなければなりません。サービスの質が患者満足につながるため、人材は重要な鍵となります。チーム医療における役割が果たせるように、高度な看護実践能力をもった看護師の

育成と支援をしていきたいと考えています。積極的に研修・学会などに参加し、外部からの刺激を大いに受けて下さい。

仏教の教えに「無財の七施」というものがあります。自分の態度や言葉で常に相手のことを配慮している心から自然に発するもので、お金がなくても誰もがいつでもできる布施の行です。これは看護の心に通じるものがあります。患者さまには優しい思いやりに満ちた言葉かけ、態度で接して欲しいと願っています。ひとり一人が嬉野医療センターで勤務することを誇りに思ってもらえるような、そして働きがいのある職場にしていきたいと思います。一人の力は限られています。しかし、全員の心をひとつに合わせ目標に向かっていけば大きな力になります。皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



院長の講演会に参加して

管理課長 上園直仁

去る4月11日(土)に嬉野市体育館において、嬉野町老人クラブ連合会総会が開催された際に、古賀院長が参加者約600名を前に、

「地域医療の崩壊が叫ばれるなか

～嬉野医療センターは～」

という演題で、講演されました。

当日は桜の花は散ってしまったものの、4月としては暑いくらいの陽気でしたが、準備された体育館の椅子は満席になるほどの盛況ぶりで、住民の方々の健康に対する関心の高さが改めてよく分かりました。

講演は1時間の予定で午前10時30分頃より始まり、古賀院長が住民の方々に、嬉野町民の平均寿命は?、佐賀県内の公立病院の数と経営は?など7項目の質問をされ、答えの説明をされる古賀院長の話に耳を傾け熱心に聞き入って



いました。

ただ、嬉野医療センターの質問になると、皆さんにあまり知られていないのかな?というのが実感で、病床数、医師数など頭を抱えられての回答が多かったようです。

でも、要はどれだけ当院が地域に貢献できているかが重要で、診療実績の年次推移の話しに

なると、「なるほど・・」「すごかね!!」といった声もあがりこの地域に無くてはならない病院なのがなと我ながら感心させられました。

基本理念にもあります「医療の質の向上、安全で安心できる医療を実現し、患者さんと地域から信頼される医療を提供します。」を常に念頭に置きながら、患者さん本位の医療を目指す医療人となる事が一番大切だと、改めて実感させられた講演会でした。



新型インフルエンザ想定訓練を行って

感染管理認定看護師 岩谷佳代子

平成21年4月25日、厚生労働省より、メキシコ及び米国において豚インフルエンザウイルス(H1N1亜型)の状況と対応に関する情報が医療機関を含めた関係機関へ発信されました。以前より、鳥インフルエンザウイルス(H5N1亜型)による新型インフルエンザの流行が予測され、当院においては平成18年に杵藤保健福祉事務所と連携し新型インフルエンザ想定訓練を実施していました。当時に比べ、徐々に新型インフルエンザに対する政府の対策が進むことでさらに現実的な対策の検討をもとめられ、当院では昨年度新型インフルエンザ対策プロジェクトチームが結成されました。当院は第2種感染症指定医療機関で、空気感染対策を講じられる陰圧病床を有しており、佐賀県の新型インフルエンザ対応医療機関6施設の中に含まれています。

今回、新型インフルエンザ(豚インフルエンザH1N1)の情報発信に伴い、再度院内職員による新型インフルエンザ(疑似症例)患者様受け入れ対応の想定訓練を実施しました。

訓練内容は、佐賀県が設置している発熱コールセンターからの患者情報の提供と、疑似患者様の来院・陰圧病室への移送、検体採取、レントゲン(ポータブル)撮影等の流れを実際に行い

ました。訓練では疑似患者様と他の入院患者様・来院者との接触を避けること、また医療従事者の連絡体制と防護服の着脱等の注意点を再確認できましたが、どのような状況であっても各部署の職員が役割を認識し対応できるよう今後も検討を繰り返す必要性があると感じました。

新型インフルエンザの情報は日々更新されており、社会的な動きは変化していく可能性がありますが、新型インフルエンザ対策として私たち個人ができる対策は変わりません。次のことをご理解し、ご協力いただきたいと思います。

新型インフルエンザ発生国に滞在したり、新型インフルエンザにかかっていると思われる人と接触した後、発熱、咳などが現れた場合は①まず、地域の発熱相談センターなどに相談しましょう。②受診することになった場合には咳エチケットのためのマスクを着用しましょう。③医療機関に電話連絡をした上で、受診しましょう。

通常のインフルエンザの流行時期においても、これまで以上に予防対策に心がけ、自分自身の健康管理に努めていただきたいと思います。感染対策の第一歩は予防することです。簡単で確実な予防策をひとりひとりが実践することで、お互いを守ることにもつながります。



認定看護師教育課程 「皮膚・排泄ケアコース」を受講して

西2病棟副看護師長
南川 栄子

平成20年9月29日～平成21年3月19日の約6か月間、国立看護大学校研修部で認定看護師教育課程「皮膚・排泄ケアコース」を受講してきました。この研修は、看護師実務経験が5年以上あり、そのうちストーマケアを3年以上経験した看護師に受講資格があり、全国の独立行政法人国立病院機構から入学試験をパスした10名が受講しました。

「皮膚・排泄ケア」って何だろう?と疑問を抱いている方もいると思います。「皮膚・排泄ケア」とは、2007年まで「WOC」と呼ばれ、W=創傷、O=オストミー、C=失禁の3領域に関するケアのことです。

創傷では、褥瘡や瘻孔、胃瘻などのドレーン挿入中のスキンケア、創傷・ドレーン管理について学びました。また、オストミーでは、ストーマ造設に伴って生じる患者の身体的・精神的・社会的問題を的確に把握し、専門的技術を用いて高い継続的な看護が実践できるように、消化器や泌尿器の病態や、小児から老年期までのストーマ造設手術について、手術に伴う性機能障害、ストーマ合併症やストーマ装具について学びました。失禁では、個人の失禁状態をアセスメントし、個々に適し

た看護を実践できるように、排尿・排便のメカニズム、尿失禁・便失禁のケア方法、排尿障害や排便障害のケアについて学びました。3領域に共通して行われたのが、皮膚の形態や機能、排泄物や滲出液からのスキントラブルの予防方法や、これらのことなどをどのように他スタッフへ伝えるかなどのコンサルテーションや教育・指導、リーダーシップなどを学びました。そして、習得した皮膚・排泄ケアに関する専門的知識やコンサルテーション技術を基盤に、225時間の臨地実習を行いました。

この研修を受講して、また他病院への見学実習などを通じて感じたことは、スキントラブルをいかにして起こさないか、いかに予防するかが重要だということです。これまでオムツをしている方のスキントラブルの予防や、褥瘡発生リスクの高い方の予防的スキンケアを行うことができていなかつたと感じました。今後はなぜ予防が必要なのか、どのようにして予防するかを実践していくこと、伝えることが私の役割だと思います。この研修で学んだことを活かし、嬉野医療センターの看護の質の向上、患者さまの満足度向上に寄与していけたらと思います。



～お祝膳を開始しました～

栄養管理室長 宮崎 淑子

この度、栄養管理室では産科の出産後の患者様へのお祝いとして、お祝膳を実施する事となりました。順調な授乳のため、授乳婦に過栄養にならない事を配慮し、動物性脂肪ひかえめで野菜等の和食を中心としたメニューを松花堂弁当に盛りつけ、お祝いのメッセージカードをつけて、提供しています。実施は5月15日(金曜日)からで、週2回夕食時の実施を予定しております。内容は限られた予算内ではありますが、赤飯・汁物・エビ旨煮・ヒレミニステーキ・酢の物・煮もの・果物盛りあわせ・ゼリーで、ささやかですが病院食よりごちそうメニューとなってあります。自宅でも魚介類や野菜等を取り入れたバランス食を継続いただければと、簡単にできる和食のレシピカー

ドをそえました。15日の当日病室へ配膳に行きますと、患者様がとても喜ばれています。お母さんと赤ちゃんにやさしい嬉野医療センターの栄養管理室でありたいと思っています。



(2009.6.2 現在)

区分		月	火	水	木	金
呼吸器科	午前	副島 佳文 澤井 豊光	松竹 豊司	副島 佳文 峰松明日香	澤井 豊光	松竹 豊司 峰松明日香
消化器科	午前	町田 治久(消化管) 川副 広明(肝臓)	鶴田 英夫 藤本 優(肝臓)	池田 真帆 町田 治久	鶴田 英夫(消化管) 藤本 優(肝臓)	池田 真帆 川副 広明(肝臓)
循環器内科	午前	山方 勇樹 吉田 健夫	波多 史朗	吉田 健夫	波多 史朗 吉田 健夫	山方 勇樹
心臓血管外科	午前		力武 一久 三保 貴裕	力武 一久(予約新患)		力武 一久 三保 貴裕
糖尿病内科	午前		田中 史子		田中 史子	河部庸次郎
リウマチ科	午前	河部庸次郎		荒武弘一郎	荒武弘一郎	田中 史子
神経内科	午前			溝田 貴光		溝田 貴光
腎臓内科	午前		中沢将之(整形で診察)		中沢将之(整形で診察)	
小児科	午前	小野 晋康	川内 恵美	佐藤 忠司 小児神経(第3水腫) (診察 14:00 ~ 16:00)	田島 大輔 小児神経(第1水腫) (診察 14:00 ~ 16:00)	酒井 菜那
	午後	佐藤 忠司 (診察 14:00 ~ 16:00)	乳児検診(完全予約制) (診察 14:00 ~ 16:00)	心臓外来 第1水腫 (受付 13:00 ~ 16:00)	小児腎臓外来 第2水腫 内分泌外来 第3水腫	小野 晋康 (診察 14:00 ~ 16:00)
外科	午前	岡 忠之 ①②④	古川 克郎 ①②④	黨 和夫 ①③	柴崎 信一 ①③	若田 幸樹(偶数週) 中尾健次郎(奇数週) ①③
	午後	岡忠之・生田安司(乳腺外来) (診察 14:00 ~ 16:00)(完全予約制)				
整形外科	午前	村田 雅和 依田 周 森口 昇	塚本 正紹 江頭 秀一 宮田 倫明	古市 格 村田 雅和 森口 昇	塚本 正紹 宮田 倫明	古市 格 江頭 秀一 依田 周
	午後	上坂十四夫	宮園 正之		宮園 正之	
皮膚科	午前	大仁田亜紀(新患) 藏岡 愛(再来)	藏岡 愛(新患) 大仁田亜紀(再来)	大仁田亜紀(新患) 藏岡 愛(再来)	大仁田亜紀(新患) 藏岡 愛(再来)	大仁田亜紀(新患) 藏岡 愛(再来)
	午後	林田 靖(新患) 谷口 啓輔(再来)	谷口 啓輔(新患) 青木 大勇(再来)	林田 靖(新患) 青木 大勇(再来)	谷口 啓輔(新患) 青木 大勇(再来)	林田 靖(再来)
泌尿器科	午前		予約外来		予約外来	
	午後	松脇 隆博(産・婦)	一瀬 俊介(産) 松脇 隆博(婦)	助産師外来(9時~16時) (完全予約制)	松脇 隆博(産) 一瀬 俊介(婦)	一瀬 俊介(産・婦)
産婦人科	午前	新納 栄良	新納 栄良	新納 栄良	新納 栄良	新納 栄良
	午後	予約外来 (特殊検査・特殊治療)		予約外来 (特殊検査・特殊治療)		予約外来 (特殊検査・特殊治療)
耳鼻咽喉科	午前	吉田 晴朗 馬場 明子	吉田 晴朗 馬場 明子		吉田 晴朗 馬場 明子	吉田 晴朗 馬場 明子
	午後			吉田 晴朗・馬場 明子 (診察 13:00 ~ 16:00)		
放射線科	午前	牧野 謙二 福井健一郎	牧野 謙二 福井健一郎	牧野 謙二 福井健一郎	牧野 謙二 福井健一郎	牧野 謙二 福井健一郎
	午後					
麻酔科 (ペインクリニック)	午前	香月 亮 島川 勇介	香月 亮 島川 勇介	香月 亮 島川 勇介	香月 亮 島川 勇介	香月 亮 島川 勇介
	午後	吉田 昌人	吉田 昌人	吉田 昌人	吉田 昌人	吉田 昌人
救急科 (8:30 ~ 17:15)						

ご紹介いただく患者様につきましては可能な限り事前予約をおとりいただきますようにお願い致します。
(当院の受付時間は、午前8時30分~午前11時00分迄です。)

※ 内科系 第2・第4木曜日はベースメーカー外来を行っています。

毎週月・金曜日の午後は一般外来を受け付けています。(受付 13時~16時)

毎週火曜日午後は乳児健診(完全予約制) 第1水曜日の午後は心臓外来(受付 13時~16時) ★完全予約制

毎月第3木曜日の午後は内分泌外来、(受付 13時~16時まで)

毎月第1木曜日・第3水曜日の午後は小児神経外来、(受付 14時~16時まで) ★完全予約制

毎月第2木曜日の午後は小児腎臓外来(受付 13時~16時) ★予約制

特殊診療のご案内

小児科 ①一般外科 ②呼吸器外科 ③消化器外科 ④乳腺外科 ■毎週月曜日の午後は乳腺外来を行っております。(受付時間 13時~16時)

毎週火曜日の午後は乳児健診(完全予約制) 第1水曜日の午後は心臓外来(受付 13時~16時) ★完全予約制

毎月第3木曜日の午後は内分泌外来、(受付 13時~16時まで)

毎月第1木曜日・第3水曜日の午後は小児神経外来、(受付 14時~16時まで) ★完全予約制

毎月第2木曜日の午後は小児腎臓外来(受付 13時~16時) ★予約制

外外科 ①一般外科 ②呼吸器外科 ③消化器外科 ④乳腺外科 ■毎週月曜日の午後は乳腺外来を行っております。(受付時間 13時~16時)

毎週火曜日の午後は乳児健診(完全予約制) 第1水曜日の午後は心臓外来(受付 13時~16時) ★完全予約制

毎月第3木曜日の午後は内分泌外来、(受付 13時~16時まで)

毎月第1木曜日・第3水曜日の午後は小児神経外来、(受付 14時~16時まで) ★完全予約制

毎月第2木曜日の午後は小児腎臓外来(受付 13時~16時) ★予約制

整形外科 ご紹介は整形外来宛でお願いします。救急患者については救急室にて対応しています。

毎月第1火曜日の午後は、ストーマ外来を予約により行っています。 ■毎週火・木曜日の午後は、検査予約外来を行っています。

泌尿器科 每週月・木曜日の午後は母乳育児指導を受け付けています。(受付時間 13時30分~15時30分)

産婦人科 每週月・木曜日の午後は母乳育児指導を受け付けています。(受付時間 13時30分~15時30分)

耳鼻咽喉科 每週水曜日の午後は一般外来を受け付けています。(受付時間 13時~16時)

耳鼻科 每月第1・第3木曜日の午前及び毎週水曜日の午後は、補聴器外来を行っています。

麻酔科 ご紹介は月曜日でお願いします。救急の場合にはこの限りではありません。

患者さまのご紹介等診療情報に関するお問い合わせ・ご要望は地域医療連携室で承っています。

嬉野医療センター 地域医療連携室 TEL:0954-43-1213(連携室直通) FAX:0120-47-3489(予約専用)

編集後記

窓から望む西公園の木々の緑も真夏に備えてか日々その色の濃さを増し、夕方の水辺に虫が飛び交う季節なりました。皆さまには如何お過ごしでしょうか。

例年のことながら、4月の人事異動に伴い編集委員の一部入れ替わりもあり遅れましたが、ようよう皆様の元にお届けすることができました。ご一読ください。

今号の一面表紙は、一階廊下に展示中の佐賀の洋画の大家である山口亮一画伯の絵としております。是非、現物の方もご覧頂きたいと思います。

紙面冒頭には、この3月末でご退任され、本紙「うれしの」の広報紙編集委員長を長年に亘り務められ、ご尽力頂きました計屋先生に、本紙の歴史と思い出を綴っていただきました。また、新幹部の澤井臨床研究部長、杉原看護部長の嬉野での抱負を述べて頂き、最近の病院の活動状況として、看護部の取り組み、新型インフルエンザのシミュレーション、栄養管理室からお祝い膳の導入についてトピックとしてお知らせ致しました。

今後も微力ながら新メンバーで時の話題、嬉野医療の情報などタイムリーに提供していきたいと考えております。一読いただきご感想などを寄せて頂ければ幸いに存じます。

広報編集委員会委員長 中村 淳一

新人紹介

医局



泌尿器科医長

谷口 啓輔



小児科医師

酒井 菜那



整形外科医師

森 口 昇



整形外科医師

依田 周



整形外科医師

塙本 正紹



整形外科医師

江頭 秀一



外科医師

古川 克郎



外科医師

中尾 健次郎



外科医師

若田 幸樹



心臓血管外科医師

野上 英次郎



脳神経外科医師

上坂 十四夫



麻酔科医師

島川 勇介



呼吸器科レジデント

峰松 明日香



神経内科レジデント

吉村 俊祐



小児科レジデント

井上 真紀子



皮膚科レジデント

藏岡 愛



東3病棟看護師長

寶木富美子



救急センター レジデント

服部 淳



外来師長

芦刈 智美



病理レジデント

田場 充



東1病棟看護師

福島 美穂



放射線科専修医

北村 慶



東1病棟看護師

畠仲 泉



研修医

内田 信宏



東2病棟看護師

藤山亜結子



看護部



東2病棟看護師

前川 明子



看護部長

杉原三千代



東2病棟看護師

八木 彩



副看護部長

石橋富貴子



東3病棟看護師

藤井 志保



東3病棟看護師

森 由美子



西3病棟助産師

山崎 明代



東4病棟看護師

古田 愛



西3病棟助産師

渡辺 未佳



東4病棟看護師

高月 真衣



西4病棟看護師

長岡 歩美



西1病棟看護師

松尾 望



西4病棟看護師

川原 千佳



西1病棟看護師

井出口 あつ子



5病棟看護師

本村 香奈



西1病棟看護師

森 彩子



5病棟看護師

島田 愛佳



西2病棟看護師

山添 智予



手術室看護師

古賀比呂美



西2病棟看護師

塩塚 亮太



外来非常勤看護師

橋本 良子



外来非常勤看護師

石原 薫



病棟クラーク（東3病棟）

福田 恭子



外来クラーク

山崎 結

事務部



企画課長

大木 和博



管理課長

上園 直仁



庶務班長

落合 康一



専門職

瀬之口眞澄



看護学校事務助手

小林 広子



臨床研究補助事務員

空閑 潤子



涉外相談役

山口 博實



経理係

森 映湖



副臨床検査技師長

金丸 和浩



臨床検査技師

桂田絵美菜



臨床検査技師

森 香織

放射線科



副診療放射線技師長

桑幡 浩一



撮影透視主任

堀上 英昭



診療放射線技師

永谷 大輔

栄養管理室



主任栄養士

坂井 桂子

臨床研究部



主任薬剤師 (CRC)

甲斐 達夫

リハビリテーション科



運動療法主任

今村 康子



作業療法士

牧岡 大喜

薬剤科



製剤主任

田所 正年

看護学校



教員

江下 栄子